

診療情報を利用した臨床研究について

虎の門病院消化器内科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた記録をまとめるものです。この案内をお読みになり、ご自身またはご家族がこの研究の対象者にあたると思われる方の中で、ご質問がある場合、またはこの研究に「ご自身やご家族の診療情報を使ってほしくない」とお思いになりましたら、遠慮なく下記の相談窓口までご連絡ください。

【対象となる方】

調査対象となる期間： 2011年1月1日 ～ 2021年5月31日の間に、虎の門病院消化器内科で術後胃に対し、内視鏡的粘膜下層剥離術を受けられた方

【研究課題名】

術後胃における内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)後潰瘍癒着化率の検討（ポノプラザン vs プロトンポンプ阻害薬）

【研究の目的・背景】

《目的》

術後胃における内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)後潰瘍の癒着化率を使用した胃酸分泌抑制薬ごとに検討します。

《研究に至る背景》

術後胃の機能的障害として排出遅延が挙げられ、内視鏡検査時にも術後胃に残渣を認めることはよく経験いたします。プロトンポンプ阻害薬（PPI）は、胃内に残渣が多い環境下では、吸収低下が起これ、十分な胃酸分泌抑制効果が得られない可能性が指摘されております。一方で、新規に発売されたポノプラザンは、既存のPPIと比較し、残渣が多い環境下でも安定し胃酸分泌を抑制することができると報告されております。

今回、実際に術後胃に対して行ったESDにおける2か月後の治療後潰瘍癒着化率を、ポノプラザンと既存のPPIを比較し、検討を行います。

【研究のために診療情報を解析研究する期間】

2021年8月4日 ～ 2023年12月31日

【単独／共同研究の別】

虎の門病院の単独研究

【個人情報の取り扱い】

お名前、ご住所などの特定の個人を識別する情報につきましては特定の個人を識別することができないように個人と関わりのない番号等におきかえて研究します。学会や学術雑誌

等で公表する際にも、個人が特定できないような形で発表します。

また、本研究に関わる記録・資料は 虎の門病院 消化器内科 野村浩介のもと研究終了後 5 年間保管いたします。保管期間終了後、本研究に関わる記録・資料は個人が特定できない形で廃棄します。

【利用する診療情報】

診療情報： 検査データ、診療記録、薬歴、内視鏡記録など

【研究責任者】

消化器内科 ・ 布袋屋修

【研究の方法等に関する資料の閲覧について】

本研究の対象者のうち希望される方は、個人情報及び知的財産権の保護等に支障がない範囲内に限られますが、研究の方法の詳細に関する資料を閲覧することができます。

【ご質問がある場合及び診療情報の使用を希望しない場合】

本研究に関する質問、お問い合わせがある場合、ご自身またはご家族の診療情報につき、開示または訂正のご希望がある場合には、下記相談窓口までご連絡ください。

また、ご自身やご家族の診療情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、2023年10月31日までの間に下記の相談窓口までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様に不利益が生じることはありません。

【相談窓口】

虎の門病院 消化器内科 ・ 野村浩介

電話 03-3588-1111(代表)